

くさびえ

第79号

みどころ紹介

ほくきき書くの書き...。
漢字のトメ、ハライは
教科書の通りでなくても
いいんだね
2022年文化庁指針

2,3ページ

親子
ふれあい
学習会
2024

in 房総のむら

教育文化奨励金助成事業（千葉教弘）

びて なー ぶー
公式キャラクター



「悔しさもモヤモヤも
話せる仲間が
ここにはいるから
参加しました」

8月22日、体験型
博物館県立房総のむら
(印旛郡栄町)にて、
親子ふれあい学習会を
開催しました。小中学

校のことばの教室に通う子どもとその家族が県内各地から参加。コスプレ、フォトラリー、畳のコースター作りなどに挑戦しました。最後に、それぞれのがんばった点を称える賞状を手渡し、アイスクリームで乾杯！

保護者の交流会では、相談する先が分からなくて困っていた悩みなどが次々に出され、時間が足りないくらいでした。ことばの教室にかつて通っていた高校生・大学生もボランティアスタッフとして大活躍してくれました。

古代の竪穴住居に初めて入ったある子は、家に帰っても夢中でその時の話をしてくれたそうです。年齢を超えて仲良くなり、閉会した後も会場で一緒に遊ぶ姿に感動しました。子どもたちも保護者も笑顔いっぱい楽しめました。

参加者のこえ

校外学習で子どもが行ったことがあるので、自分も行って見たかった。コミュニケーションが苦手なため、今まで学校以外で団体行動に参加することが出来なかったが、ことばを大切にすると決めたので、この会だったら参加させてもらえるかとも思いました

いつもと違う知り合いができてメッチャうれしかった



コスプレは緊張したが、着て楽しかった。散策時に同じ学年の友達ができて楽しかった

保護者の話し合いでは、身近な関心事から将来の不安まで話せて、まだまだ聞き足りなかったですが「今はしっかり子どもに寄り添うことのいつか子どもは大人になっていくから大丈夫」という言葉が心に響きました

人生の"パスポート"で 大人になってもズ〜と安心

ライフサポートファイル

令和6年4月1日から 多様性の時代へ 1歩前進しました。

「もう少し頑張れば」「合理的配慮するほどでも」の時代は終わりました。

メガネ をかけるように 周りの理解で その子の 得意が長所になる 時代のはじまりです。

通級指導など 成長の記録を 保護者が集めて 自分で保管していこう！

お子さんの 将来のチャンス を逃さないコツ を 5つにまとめてみました。

2

ライフサポートファイル 活用して伝える

その子がその子のまま 生きていくために

ライフサポートファイルを保護者が **ゲット get!**

個別の支援計画、個別の指導計画の作成

保護者は、先生などと協力して作成

年数回、サポートが有効か話し合いで検討

ライフサポートファイルに保護者が**記録**

将来の夢を本人が思い描こう

合理的配慮 ○×クイズ

読み書きが困難な子どもが、次の合理的配慮を認められたケースはある？ない？

- 回答をひらがなで書く
- とめ・はね・字形を問わない
- 漢字にルビを振る
- 漢字の書き問題を選択肢にする
- テストを自分のタブレットで行う
- 問題を代読してもらう



1

客観的にわが子を理解

まずは通級の先生と話してみよう

必要な場合は 各種検査を受けて わが子を客観的に理解しよう

合理的配慮を受ける

先生と協力して 得意を活かせるサポートを

本人に状況を伝える

得意なことで自信や自己肯定感 **アップ**



5

わが子を応援する サポート体制

すべての人が 得意なことを活かせる社会へ

地域支援体制の構築

社会人になったとき 一緒に考えてくれる バックアップ体制の確立を

こまめな情報共有や 話し合いを持とう



その子の得意が 活かされる多様性の社会

3

進路に向けて

受験でも合理的配慮が可能

定期テストで受けてきたサポートは受験時もOK

医師の診断書があっても不十分な場合あり

ライフサポートファイルが役立つ

進学や受験する学校、会社と 早めに話し合おう

進級・進学時に注意！

- 小学生 学校生活（タブレットの使用、宿題など）
- 中学生 学校生活+定期テスト⇒高校受験
- 高校生 学校生活+定期テスト⇒大学受験、就職試験
- 就職 業務内容、配属、周りの理解

その子に合った進路を本人と一緒に見つけよう

4

"自分"を理解し "自分"は自分で守る

自立活動

セルフアドボカシー（自己権利擁護）

周囲の配慮や欲求は保護者が代弁 高校生からは本人が自分で伝えていく

相手としっかり話し合う力を付けていこう

自己主張？ わがまま？

- 適切な自己主張 自分の権利を主張し、相手の話も聞いて話し合うこと
- わがまま 自分の権利だけを主張し、相手の話を聞かないこと

小中学校の通級では、「自立活動」による自己理解した上での適切な自己主張の学習をめざして 指導計画は作成される

ぼくの夢は システムエンジニア！ ノート・テスト・宿題は 自分のタブレットを 使った 勉強、楽しいよ



用語説明

各種検査

子どもの得意・不得意などの発達のバランスを知るためにWISC-IVやWISC-V（最新）などがある。全体的なIQと、言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、処理速度の4つの指標をそれぞれ数値化することで特性＝性格が客観的にわかる。公認心理師や臨床心理士などの専門家が行う。 幼児用：WPPSI 成人用：WAIS。

ライフサポートファイル

子どもの成長の記録を1冊にまとめていくファイル。進級・進学、病院、療育機関、就職先などでの説明はこの1冊でOK。一貫した支援をスムーズに受けるために活用。学校の先生、医師なども記入できる。地域ごとに名称・様式は様々。役所でもらえる。市町村などのHPからDL可能な場合もある。災害時にも活躍。母子手帳、通知表と一緒に活用・保管していこう。

合理的配慮

「特別支援教育」の言い換えではない。通級する児童生徒自身が、他の子と平等な教育を望んだとき、無理解や前例に阻まれ（社会的障壁）て参加出来ない場合、ルールや環境などの変更・調整すること。一人ひとり内容は違う。法律の改定により、令和6年4月から私立学校でも提供が義務化された。「特別扱いできません」「もし何かあったら」「出来ないならやらなくてもいいよ」はNGワード！

個別の教育支援計画と 個別の指導計画

支援計画⇒関係機関が連携し、一貫した的確な教育支援を行うための計画。 指導計画⇒指導目標や指導内容・方法を具体的に表した計画。通級指導教室に通う児童生徒は作成と活用の対象。 本人の長期目標に向け、保護者と複数の先生などが協力して、作成・確認・評価・追記を長期休みや学期ごとに行う。

障害者差別解消法

「私たちのことは私たち抜きで決めないで」と世界中の障害者が声を上げ、2006年に国連で採択。2014年に日本も批准。2024年4月1日に改正・施行。

セルフ・アドボカシー（自己権利擁護）

自分に必要なサポートを、自分で周りの人に説明し、理解してもらって活動のこと。伝えるときはその理由も説明しよう。セルフアドボカシーは誰もが平等に挑戦していくためのもの。

県教委と

健康福祉部に

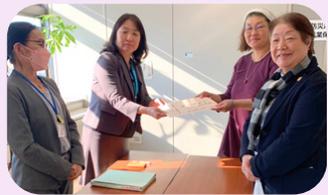
4 要望書 提出

9月12日、幼児に関する要望書を健康福祉部へ提出。5歳児の健康診査（健診）とフォローアップの充実が重要と伝え、共通認識することができました。

難聴児の学びの場は、県内には3施設しかない。難聴児を連れての長時間の移動は危険。そのため、施設の増設が急務であることもお話ししてきました。

【健康福祉部への要望書の内容】

- ① 早期発見・早期療育のため、現在の3歳児健診に加えて4歳児健診、5歳児健診を実施し、診査項目に言語検査を
- ② 幼児の保護者が、言語障害の相談・指導を受ける事ができる機関を常設するよう各市町村へご指導を
- ③ 言語障害児は他の障害の児童と比べ、健診で見過ごされやすい。各市町村の担当者に言語障害についての認識を高めるよう啓発を



11月7日、県教育委員会への要望書を提出。1月20日に回答とお話し合いが行われました。（詳細はホームページ）

船橋市ことばを育てる会・船橋小学校 共同開催

家族と一緒に
見てみよう
動画配信START

講演会

講師
腰塚勇人さん

「気もちの授業」

スキー事故で全身麻痺に。
「がんばって」の一言に傷つき
「一緒にがんばろう」に救われて見えたことは。
実際行った、自分で自分にかける「ことば実験」では
驚く結果が

視聴するには……
ホームページ「会員専用」
からご覧ください。
公開期限 2025/8/31まで

自分の気もちのみずうみを、いっぱいに行きたいと、思いました。（小学生の感想）

編集後記

「まずはやってみよう。ダメなら変えていけば良い」と、様々な事に挑戦しています。公式キャラクターのLINEスタンプもその1つ。面白い！が原動力。スタンプショップで見つけた人、良いことあるかも



会の存在と要望活動がことばの教室を守る

茨城県でことばの教室が激減

10月31日、全国ことばを育む会が主催する関東ブロック会議が開催されました。

茨城県から、学校の統廃合などに伴い、ことばの教室がこの2年間で70教室以上減ったことが報告されました。今回の事で、茨城県ことばを育む会として要望活動をする必要を感じたそうです。

「会は一度無くなってしまえば二度と作ることは出来ない。小さくなくても細く長く続けていくことが大切だ」と、参加者の発言に励まされました。

当会が続けている要望活動は、ことば・きこえの教室を守っているんだと再確認。会を絶やさず、会員の気持ちを自治体に届ける要望活動を今後も続けていきたいです。



子供を中心に考えると見えてくる

先生と保護者の連携

千葉県特別支援教育研究連盟 言語障害教育研究部会と1月18日、交流会を開催しました。

小学校で通級していなかった生徒が、中学に上がって吃音などの悩みを抱えるケースがあり、相談を受ける事があるそうです。

千葉市では教育センターに通級の相談ができるとのこと。地域によって様々だと分かりました。

県内全体的に、次代を担う専門性を身につけたことばの先生が足りない。経験の浅い先生たちに、経験豊富なことばの先生がサポートする仕組みが欲しいなど先生方からお話を聞くことができました。

「子どもを真ん中に」今、何が出来るのか、これからは先生方と一緒に考えていきたいと思ひます。



当会のホームページ

ご覧ください→

〒292-0822

事務局

木更津市桜井1450

090-2666-6843 宮本

chibakenn5108@gmail.com



https://www.chiba-koto
www.chiba-koto.com
https://www.chiba-koto.com